

石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（2）

Teaching classes by the curator and placing exhibitions

at elementary school and junior-high school (2)

—Utilizing the artifacts from *Ishikari Momiji-yama No.49* archeological site

荒山 千恵*

Chie ARAYAMA*

要 旨

いしかり砂丘の風資料館では、「ふるさと学習」の一環として、石狩市内に位置する石狩紅葉山49号遺跡を活用した市内小中学校での出張授業・出張展示に取り組んでいる。本稿は、平成27年度の内容をまとめたものである。実施をととして特に求められていることは、①小中学校向けの教材開発の充実、②資料館の教育普及と学校教育との連携によるプログラムの開発、③興味をもったことをさらに育んでもらうための工夫である。今後も地域の歴史・文化・自然への興味をより深めてもらえる持続的な取組が必要である。

キーワード：小・中学校、出張授業・出張展示、石狩紅葉山49号遺跡、縄文文化、教育普及

1. 目的

いしかり砂丘の風資料館では、「ふるさと学習」の一環として、石狩市花川に位置する「石狩紅葉山49号遺跡」（以下、49号遺跡）をテーマとした小・中学校における出張授業・出張展示を実施している¹。目的は、身近に遺跡があることを知り、地域の歴史に興味・関心を高めてもらうためである。平成26年度より取り組みをはじめ、平成27年度も実施した。実施校は、石狩市立緑苑台小学校、石狩市立花川中学校である。49号遺跡を選定した取り組みの背景については、荒山（2015：67-75）に記している。本稿では、平成27年度の実施内容について記す。

2. 実施の概要と方法

（1）小学校

緑苑台小学校で実施した出張授業は、第4学年の児童を対象とし、1組から3組までのクラス毎

に45分間ずつ実施した。実施日は平成27（2015）年7月13日、場所は理科室、科目は総合的な学習の時間である。授業のテーマは「石狩紅葉山49号遺跡について学ぶ」である。授業の進行の要所は各クラスの担任の教諭にご協力いただき、講義・ワークショップをいしかり砂丘の風資料館の学芸員（荒山）が担当した。また、ワークショップは児童が資料観察をおこなう際のサポートとして、石狩市学芸協力員の石橋孝夫氏にご協力いただいた。石橋氏は49号遺跡における発掘調査の総括者である。

出張展示は出張授業の日程に合わせて、平成27年7月10日から7月16日まで、緑苑台小学校玄関前ホールでおこなった（写真1）。玄関前ホールは、全学年の児童が見ることのできる場所であることから、他の学年の児童にも興味をもってもらえる機会になった。「石狩紅葉山49号遺跡からみつかった縄文時代の暮らしと道具」と題し、49号遺跡から出土した土器・石器・木製品などを紹介する写真と道具の使用イメージのイラストによる

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

紹介、河川漁の様子を復元的に表現したジオラマの展示、竪穴住居址（床面）の直径の長さをカラーテープでホールの床面に示して見てもらう紹介など、視覚的にわかりやすい展示になるよう工夫した。

（2）中学校

花川中学校で実施した出張授業は、第1学年および第2学年の生徒を対象とし、各学年の1組から4組までのクラス毎に50分間ずつ実施した。実施日は第1学年が平成27年8月25・26日、第2学年は9月10日、場所は家庭科室である。授業のテーマは、「石狩紅葉山49号遺跡から縄文文化を学ぶ」である。各学年とも社会科教諭のご協力のもとに、講義・ワークショップをいしかり砂丘の風資料館の学芸員（荒山）が担当した。また、ワークショップのサポートは、石橋氏および資料館ボランティア「いしかり砂丘の風の会」（以下、風の会）の方々にご協力いただいた。風の会のメンバーも本遺跡の調査や整理作業に携わった方々である。

出張展示は、校内の各階にある西ホールのうち、授業を実施する学年のフロアである1階と3階で、それぞれ授業日程に合わせて同じ展示内容で数日ずつおこなった（写真2）。「縄文時代の木の道具―石狩紅葉山49号遺跡より」と題し、展示内容は出張授業の内容に絞らず、49号遺跡にみる縄文文化の内容や特色が深まり、広められるように工夫した。また、石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品が平成27年7月に石狩市の市指定文化財に指定されたことも展示内容に加えて紹介した。

3. 教材

出張授業の教材は、授業の展開（表1）に合わせて、以下に示す【教材①・②・③】を用いた。基本的には前年度に実施した出張授業で使った教材をもとに、その経験を踏まえて観察資料用の教材を新たに追加し、プレゼンテーションソフトの内容は開催校に合わせて一部改変した。教材の

内容は、小・中学校ともに49号遺跡を対象とする点では同じであるが、発達段階に合わせた内容で実施できるよう工夫した。特に、小学校の第4学年では縄文時代を学んでいないことから、まずは、地域の大昔の暮らしについて知ってもらえることを重点的に考慮した。具体的には、出張授業の「Ⅰ. 講義」で用いる【教材①】に、プレゼンテーションソフトの中で写真とイラストを用いて内容が理解しやすくなるようにし、ワークシートの解説ではルビをふって読みやすく、わかりやすくなるように作成した。一方、中学校の第1学年・第2学年では、第1学年の歴史で縄文時代（縄文文化）を学習することから、出張授業の「Ⅰ. 講義」で【教材①】のプレゼンテーションソフトを用いた説明に縄文時代の時期や特色、遺跡の用語解説などを取り入れて、より理解を深められるように工夫した。

【教材①】解説用の教材

出張授業の「Ⅰ. 講義」で使用する教材で、主に2種がある。一つは、解説用のプレゼンテーションソフトで、写真・図・イラストなどを用いて遺跡発掘調査の様子や遺物を見てもらうためのものである。資料観察の方法や注意事項についても、プレゼンテーションソフトを用いて説明した。もう一つは、解説ワークシートである。出張授業の内容を振り返られるように作成し、配布した。

【教材②】観察資料用の教材

出張授業の「Ⅱ. ワークショップ」で使用する教材である。観察資料用教材は、小・中学生で基本的に同じものを使用し、観察時にそれぞれ対象に合わせた内容で実施した。実際に資料（モノ）をとおして、縄文時代の道具を知り、当時の暮らしを考えることができるよう、観察資料の選定を工夫した。具体的には、石狩紅葉山49号遺跡の出土品をもとに、素材の異なる道具をテーマとした次のA～Cを用意した。特に、触りながら考えることを目的とする教材には、【ハンズオン】と記

す。

A. 土器

- a. 縄文土器（土器片）
- b. 復元製作した完形の土器
- c. 縄目の文様模型【ハンズオン】
- d. 土器の製作方法を観察する模型【ハンズオン】

B. 石器

- a. 剥片石器（石鏃・スクレイパー・ドリル等／小ケース入）
- b. 復元製作した石器（ケース入）
- c. 黒曜石の原石と割ったときの石核と剥片／小ケース入）
- d. 磨製石斧（ケース入）
- e. 使用イメージのイラスト

C. 木製品

- a. 49号遺跡出土の舟形容器および柄付容器のレプリカ（観察のみ／さわらない）
- b. 49号遺跡出土の舟形容器および柄付容器をモデルにした復元模型【ハンズオン】

【教材③】記入用の教材

出張授業の「Ⅱ. ワークショップ編」「Ⅲ. 発表」「Ⅳ. まとめ」に使用する2種を用意した。一つは、ワークショップ編の資料観察に使用するための「書き出しシート（グループ用）」で、画用紙と付箋を用意した。シートには観察のポイントを記したものを予め貼付しておいた。グループで観察しながら、気がついたこと、発見したこと、不思議に思ったことなどを書き出し、画用紙に張り出しながら、児童・生徒が意見を交わして整理していくためのものである。もう一つは、感想シートである。授業の最後に、感想（発見したこと、新たに知ったこと、興味をもったこと、不思議に思ったことなど）を自由に記入するためのものである。記入後に提出してもらい、担当した学芸員がコメントを記入のうえ後日学校へ返却し、記入した児童・生徒の手元に残るようにした。

4. 実際の授業

作成した指導案の授業展開に基づいておこなった。小・中学校ともに、授業展開の構成は、「授業の開始」の後、「Ⅰ. 講義」「Ⅱ. ワークショップ」「Ⅲ. 発表」「Ⅳ. まとめ」の4つの展開を経て「授業の終了」とした。授業の到達目標は、「石狩紅葉山49号遺跡をとおして、約4000年前（縄文時代中期後半頃）の暮らしや道具について知ることができる」とした。ここでは、実際に小・中学校で実施した授業展開と児童・生徒の活動の様子について示す。

（1）小学校（写真3）

授業は1クラス45分間で、授業の開始および終了で各5分間程、授業の展開では、およそ、Ⅰ. 8分間、Ⅱ. 10分間、Ⅲ. 8分間、Ⅳ. 7分間の配分とした。

「Ⅰ. 講義」では、大型テレビを使用してプレゼンテーションソフトにより編集した写真やイラストを見てもらいながら説明した。49号遺跡の概要として、まずは、「どこにあるの?」「どれくらい昔の暮らし?」「この遺跡からどんなことがわかるの?」をポイントに説明した。次に、ワークショップで観察する、「土器・石器・木製品（木の道具）」について簡単に紹介し、最後に、「資料観察の方法とお願い」について説明した。児童の様子は、これから観察する約4000年前の人々の道具が、自分たちの知っている身近な場所から発見されたことを知ると驚いた表情を見せ、写真やイラストの説明を熱心に聞いていた。

「Ⅱ. ワークショップ」では、「土器班」「石器班」「木製品班」を2班ずつ計6班に分かれて実施した。児童の活動では、各班で机に用意した資料を観察してもらった。観察中は、学芸員が各班を回って観察のポイントを説明し、観察中の質問にも対応した。また、学芸協力員の石橋氏にも、観察のサポートをしていただいた。観察時の児童の様子は、班の中で活発に意見を交わし、学芸協力員の話をも熱心に聞いていた。また、班ごとに気

が付いたこと、わかったこと、不思議に思ったことなどを付箋に書いてもらったところ、多くの観察内容が付箋に書き出された。それらの内容をみると、土器班では、「固い」「大きい」「表面はごつごつ、中はつるつる」等の書き出しがあった。また、説明を聞いて、「粘土を焼いて作っている」「縄で模様（文様）をつけている」「なべの役割」という書き出しもみられた。石器班では、石器の色・形・大きさについて記したものが多く、特に、石鏃では「とがっている」「するどい」「生き物をつかまえる」、磨製石斧では「なめらか」「つるつる」「木をきる」等が書き出されていた。さらに、石器につけられた注記（遺物に遺跡名や出土年等を簡略して記したもの）に気がつくものもあった。木製品班では、木製品の色・大きさ・厚さ・形・木目、舟形容器や柄付容器の機能や用途（もつところがある、お皿として使う、水がすくえそう等）が書き出されていた。また、レプリカ（実物の複製品）に小さな孔が空いていることに気がついた児童もあり、これらの孔は木製品が土中に埋もれている間に植物の根で穿たれたもので、細かなところまで観察されている。

「Ⅲ. 発表」では、各班を代表して1名ずつの児童に発表してもらった。自分たちの班が何を観察したのか、どのようなことがわかったか、付箋に書き出された気がついた点や不思議に思った点から1分間程で話してもらった。今回の授業では、「土器」「石器」「木製品」を2班ずつに分けたため、発表の時間をおして他の班の道具について知ることのできる時間とした。提出された感想文の中にも、他の班の観察した道具に興味を示したものがみられた。各班の児童からの発表に対しては、学芸員がコメントを述べてクラス全体で知識を共有し、理解を深められるようにした。

「Ⅳ. まとめ」では、授業の総括とともに、授業をおしての感想を各個人に記入してもらった。ⅡおよびⅢの時間配分がやや長くなり、「まとめ」として配分していた時間より短くなる場合もあった。少ない時間の中であったが、興味をもつ

たこと、話を聞いてわかったこと、授業を通して感じたことが記されていた。記入内容については、「5. 実施の結果」に記す。

（2）中学校（写真4）

授業は1クラス50分間で、授業の開始および終了で各5分間程、授業の展開では、およそ、Ⅰ. 10分間、Ⅱ. 10分間、Ⅲ. 10分間、Ⅳ. 5～10分間の配分とした。

「Ⅰ. 講義」では、スクリーンにプレゼンテーションソフトを投影して実施した。最初に、「縄文時代」や「遺跡」などキーワードとなる用語について説明した。特に、中学校における社会科のカリキュラムでは、第1学年の歴史の時間に縄文時代を学習することから、特に第1学年の出張授業のタイミングとしては学習に効果的な時期であったといえる。用語の確認後は、49号遺跡の概要を説明し、ワークショップで観察する資料について簡単に紹介し、最後に、資料観察の方法と注意事項について説明した。

「Ⅱ. ワークショップ」では、「土器班」「石器班」「木製品班」を2班ずつ計6班に分かれて実施した。観察中は、学芸員が各班を回って観察のポイントを説明し、学芸協力員や風の会の方々にサポートをしていただいた。生徒の活動では、各班で机に用意した資料を観察してもらった。観察の様子を見ると、風の会の方々の説明を聞きながら、縄文土器の縄目の文様や石器の細部の加工をよく観察する様子が見られた。また、木製品班では、木目を観察して木取りを考えたり、縄文時代の木製品の加工技術について意見を交わしたりする様子が見られた。各班で観察した内容を書き出した付箋をみると、土器班では、「（粘土に）砂を混ぜて輪積みにして作った」「底が一番厚い」「上の方の口が大きく下のほうが小さい」「色がまだら」「内側が黒い」「野焼きした」「煮炊きに使った」「いろいろな種類の縄目模様がある」「上の部分と下の部分で縄目模様が違う」等が記されていた。土器の製作技術や使用方法を考えながら、観察した縄文土器の特徴がよく観察されて

いる。石器班では、「いろいろな種類がある」「石器ごとに形や大きさはいろいろある」「打製石器はたたいて作っているけど磨製石器は石をみがいている」「木の道具と組み合わせて使っていた」「金属は使われていない」「昔は石が大事だった」等が記されていた。製作技法の違い（打製と磨製）や、石器を異なる素材と組み合わせて使用するなどの復元的な観察がされている。「木製品班」では、「食器」「食べ物を入れる皿」「壊れにくように固くて丈夫な木」「厚さがあまりなく薄くできていた」「石器などで削ったと思う」「（木の器を作るために）大きな木が必要だということがわかった」「一つの道具を作るのはたくさんの手間がかかっていた」等が記されていた。当時の製作技術や木製容器を作る材料の検討、用途について考えながら観察されている。

「Ⅲ. 発表」では、各班を代表して1名ずつ生徒に発表してもらった。自分たちの班が何を観察したのか、どのようなことがわかったかを、各班で書き出した付箋をもとに1分間程で話してもらい、その後に学芸員が専門的な内容も含めてコメントを述べ、理解を深められるようにした。

「Ⅳ. まとめ」では、授業の総括とともに、授業を通しての感想を各個人に記入してもらった。記入内容は、「5. 実施の結果」に記す。

5. 実施の結果

本授業の到達目標は、前述のとおり、「石狩紅葉山49号遺跡をとおして、約4000年前（縄文時代中期後半頃）の暮らしや道具について知ることができる」である。この目標のもと、実施後の評価については、「Ⅰ. 身近にある石狩紅葉山49号遺跡について知ることができたか。」「Ⅱ. 石狩紅葉山49号遺跡を通して、縄文時代中期後半頃（約4000年前）の人々の河川漁や生活用具について知ることができたか。」「Ⅲ. 大昔の人々の暮らしに興味・関心をもって意欲的に学ぶことができたか。」を設定した。これらの目標の達成度をより具体的に確認するために、授業の最後に児童およ

び生徒が記入した感想をもとに、評価Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについて検討する。表2および表3は、授業の最後に児童および生徒が記入した感想から、その内容をまとめたものである。

小学校で実施した児童の感想（表2）では、主に、縄文時代の人々の暮らしや道具全般に関すること、自分が観察した縄文時代の道具（土器・石器・木製品）に関してわかったことや思ったことが記されていた。これらの内容からは、授業の内容をよく理解し、意欲的に取り組まれたことがわかる。また、「資料館に行ったら見てみたい」「また知りたい」など、興味を深めてみたいことが書かれた感想もみられた。さらに、質問や不思議に思ったことも表2-F に示す内容が挙げられ、これらはワークシートにコメントを添えて返却した。児童の感想からみた授業の効果については、以上の点から、評価Ⅰ・Ⅱについては概ね達成され、評価Ⅲは、授業の様子や感想の内容から意欲的に取り組まれていたことがわかり、高い達成度であったと考える。

中学校で実施した生徒の感想（表3）では、「縄文時代」や「4000年前」などの時代や時間軸を意識した内容、49号遺跡の位置や身近なところで発見された空間的位置づけを意識した内容が複数に書かれていた。また、49号遺跡出土の木製品について、普通の遺跡では残りにくい貴重な出土品であることに関心をもつ内容も認められた。さらに、授業をとおしての感想や展望として、「もっと違う道具について見てみたい」「この授業で他の時代の遺跡を知りたくなった」などの記述もみられた。特に、他の時代にも興味が及んだことは、児童の感想にはみられなかったことから、中学校で歴史を学ぶ過程で実施することで興味が広がる点で効果的であることが期待される。質問や不思議に思ったことでは、素材の採取や製作技術にかかわるものが複数にみられた。以上の点から、評価Ⅰ・Ⅱについてはよく理解されており達成されたといえる。評価Ⅲについても、感想の記述には意欲的な内容が多く、概ね達成できたと考える。

なお、花川中学校で実施した生徒の感想シートには、「授業を受ける前、石狩紅葉山49号遺跡について知っていましたか。」の設問を用意し、「知っていた・知らなかった」のいずれかに○をつけて回答してもらった（表4）。その結果、第1学年の回答では、「知っていた」が4.1%、「知らなかった」が88.4%、記入のないものが7.4%であった。また、第2学年の回答では、「知っていた」が12.4%、「知らなかった」が86.1%、記入のないものが4.3%であった。これらの結果から、授業を実施する前は、第1・2学年において8割以上の生徒が49号遺跡について知らなかったことになる。出張授業および出張展示をとおして、身近にある縄文時代の遺跡を知ってもらうことができたことは、地域の歴史に興味をもつ効果的な機会になったといえる。

児童・生徒が記入した感想シートには、すべて一言ずつ記入のうえ返却した。

6. まとめと展望

出張授業および出張展示を実施して、平成27年度の取り組みをふり振り返り、まとめにかえる。

第一に、実施前の準備についてである。教頭や担当教諭と打合せをさせていただき、授業を実施する教室、班の分け方、資料の運搬方法、ワークシートの配布方法、展示の場所や方法など、細部にわたり相談させていただいた。授業当日は、限られた時間の中で、ほぼ予定どおり授業を進めることができ、展示の設営・撤去もスムーズにおこなうことができた。

第二に、昨年度に引き続きご協力いただいた、学芸協力員ならびに風の会による授業サポートについてである。発掘経験者との交流によって観察時間を充実させることができ、遺跡や遺物への興味を高めることができた。今後も、発掘経験者との交流を交えたワークショップによる観察時間を充実させていきたい。

第三に、教材についてである。レプリカ・復元製作品・模型品を補助教材として活用したこと

で、製作技術や使用方法をより具体的に考えてもらうことができた。教材の内容や数については、児童・生徒からの感想や質問の内容も踏まえて、今後も少しずつ工夫していきたい。また、出張授業で活用可能な実物資料には限界があることから、授業を契機として資料館に展示されている実物資料や大型資料を見てもらうことにも繋げていきたい。

第四に、授業の展開についてである。今回の授業では、ワークショップにおいて「土器」「石器」「木製品」をそれぞれの班に分けて資料を観察し、発表の時間において他の班が観察した道具について知る時間とした。この方法では、資料館で総合的に展示を見学する機会とは異なり、資料をより間近で観察し、触れる補助教材などを活用して製作方法や使用方法について考える機会となることを重視した。結果として、小学校の実施では、児童が各班の中で資料をよく観察することができていた。また、他の班が観察した道具にも高い関心を示し、各班の発表のときには熱心に耳を傾ける様子が見られた。感想文にも、他の班の発表を通していろいろな道具に興味を示した様子が認められた。一方、中学校の実施では、縄文時代の理解を深める方法として、観察時間の段階で土器・石器・木製品をバランスよく取り入れることで、さらに効果的な展開となる可能性があると考えられた。授業の時間や教材の資料数が限られている中で、ワークショップの方法や班の編成を工夫するなど、今後の出張授業の計画において、さらに効果的な機会となるよう取り組んでいきたい。

第五に、出張展示についてである。出張授業の日程を合わせて実施することは相乗的な効果が期待される。授業前や授業中で展示内容の周知をするなど、両者に関連性をもたせて興味を深めてもらえるよう、今後も工夫して取り組みたい。また、緑苑台小学校では授業を実施していない学年にも興味をもってもらえる機会となったことは有意義であった。

最後に、児童・生徒から「さらに調べたい」



写真1. 小学校における出張展示の様子.



写真2. 中学校における出張展示の様子.



1. 写真やイラストを見ながら49号遺跡の説明を聞く様子.



2. 資料観察で気がついたことを書き出している様子
(写真の資料は触れる復元模型) .

写真3. 小学校における出張授業の様子.



1. 49号遺跡の説明を聞く様子.



2. 資料観察の様子(風の会のサポート) .

写真4. 中学校における出張授業の様子.

表 1. 出張授業の展開.

児童・生徒の活動	講師（学芸員）の活動	小学校	中学校
☆授業の開始 ・ 6 班に分かれて着席	・ （自己紹介）	【5分間】 ・ ワークシート配布	【5分間】 ・ ワークシート配布
I. 講義 ☆プレゼンテーションソフトを使用 ●はじめに ・ この授業のねらいと目標を理解する. ●石狩紅葉山49号遺跡とは ・ 遺跡の位置や時代を理解する. ・ 発掘当時の写真から遺跡の様子を知る. 特に縄文時代中期（約4000年前）の河川漁に関わる遺構や遺物が出土したことを理解する.	・ 授業のねらいと目標を説明 ・ 遺跡の写真を紹介 （概要、特徴を説明する.） （Ⅱに入る前に） ・ 資料の取扱方法（注意事項）を説明	【8分間】 ・ 緑苑台小学校と49号遺跡の位置関係を確認（どこにあるの？） ・ 写真やイラストで、遺跡の様子や大昔の暮らしと道具の使用イメージを説明（どれくらい昔のくらし？） （この遺跡からどんなことがわかるの？）	【10分間】 ・ 花川中学校と49号遺跡の位置関係を確認 ・ 遺跡とは ・ 縄文時代とは （どれくらい昔なのか、縄文時代はどのような暮らしか、49号遺跡でみつけた縄文中期がいつ頃なのか説明） ・ 写真を中心に49号遺跡の説明
II. ワークショップ ☆資料観察によるグループ学習 ●縄文文化の道具を学ぶ. ・ 班ごとに資料を観察：土器班、石器班、木製品班（各2班） ・ わかったこと、気がついたことなどを付箋に書き出し画用紙に貼る.	・ 観察のポイントを説明 ・ 資料観察のサポート （学芸協力員・いしかり砂丘の風の会による協力）	【10分間】 ☆土器班☆ （①土器の材料は／②どのように作ったか／③どんな形をしているか／④何に使うか／⑤縄文土器の文様について） ☆石器班、木製品班☆ （①何から作っているか／②どんな形をしているか／③何に使ったか） ・ 残り時間のアナウンス	【10分間】 ☆土器班☆ （①土器の材料は／②どのように作ったか／③どんな形をしているか／④何に使うか／⑤縄文土器の文様について） ☆石器班、木製品班☆ （①何から作っているか／②どのように作ったか／③どんな形をしているか／④何に使ったか） ・ 残り時間のアナウンス
III. 発表 ・ 班ごとに代表して観察したことを発表する. ・ 発表をとおして縄文時代のいろいろな道具を知る.	【8分間】 ・ 発表時間は各班1分間程 ・ 発表後にコメント、解説	【10分間】 ・ 発表時間は各班1分間程 ・ 発表後にコメント、解説	【10分間】 ・ 発表時間は各班1分間程 ・ 発表後にコメント、解説
IV. まとめ ・ 感想シートに記入し、提出する.	・ 記入後に感想シートの回収	【7分間】	【5～10分間】
☆授業終了	・ 資料のかたづけ	【5～7分間】 ・ ワークシートは後日返却	【5分間】 ・ ワークシートは後日返却

表2. 小学校で授業を実施した児童（第4学年）による主な感想.

A) 縄文時代の人々の暮らしや道具全般に関すること

- ・昔はすばらしい！
- ・縄文時代の人は頭を使っているいろいろな道具を作っていてすごいと思った。
- ・縄文時代の人は何を作るのにも「大変だったのだな」と思う。
- ・昔の道具と今の道具ではぜんぜん違うことがわかった。昔はけっこう頭のいい人が作っていると思った。
- ・昔の人は身近な物を使ってすごいなと思った。身近なものは役に立つと思った。
- ・縄文時代の道具の土器や、動物・魚をつかまえる道具がとってもすごかった。
- ・いろいろ大昔のことがわかってよかった。4000年前の人は、こういうのを使って暮らしていたことがわかった。
- ・昔の物が今ものこっている。

B) 土器に関すること

- ・外面がごつごつしていて内面がつるつるしていた。
- ・土器はなべとして使われているとは知らなかった。
- ・土器の模様は縄で作られていることがわかった。
- ・もよう好きだなと思った。
- ・土器を作るのにも苦労していたと思う。
- ・発掘したときにほとんど割れていることが多いと知ったときは、びっくりした。

C) 石器に関すること

- ・石器はいろいろなことに使えると初めて知った。
- ・黒曜石は、見た目はなめらかだけど、本当はすごくするどい。
- ・すごいピカピカでつるつるしていて、色、大きさ、形はそれぞれちがった。
- ・石をわって、矢の先や斧を作って使っていた。
- ・石からいろいろなものをつくっていたのだな、と思った。
- ・思ったより先がするどかった。大きな石器もあれば小さい石器もあった。磨製石斧がけっこう大きかった。
- ・石を矢にしたり斧にしたり、いろいろなことにしたりして、4000年前はすごかったと思った。
- ・黒い石を割って、狩に使う物を作ったのが、すごかった。
- ・できれば磨製石斧にさわりたいかった。
- ・石器が少しかけているところがあった。

D) 木製品に関すること

- ・木の道具が舟みたいな形をしていた。きつと食べ物を入れると思う。
- ・昔は魚を取るしかけがいっぱいあるのだなと思った。
- ・縄文時代の道具でおもしろい形の道具がいっぱいあった。
- ・木の道具を観察してスプーンみたいなのがあって、すごいなと思った。他の班の縄文土器もすごかった。
- ・昔の人は、木でいろいろな物を作っていたということがわかった。作るときに石器を使っていたということもわかった。とても楽しかった。

E) 授業をととして・展望

- ・紅南公園の近くから発掘されたことをすごくびっくりした。もっと遠いところにあるのかなと思っていた。
- ・縄文時代の人々が作っていた木製品を詳しく見られ、土器、石器も見られて楽しかった。木製品のことがよくわかった。
- ・昔の人は、いろいろな物を自分で作っていることがわかった。昔の道具を観察できて勉強になった。すごく楽しかった。
- ・今度、いしかり砂丘の風資料館に行ってみたい。
- ・もっといろいろ調べたくなった。
- ・もっと縄文時代のことを知りたい。
- ・いろんな木製品や土器・石器などのものを見られたので、すごく楽しい時間だった。また知りたい。

F) 質問・不思議に思ったこと

- ・石器とか自分たちで作るのか。
 - ・土器や木製品は誰が考えたのか知りたいと思った。
 - ・石が弓の先の形をしているのがびっくりした。
 - ・石に赤いものが見られた。模様なのか、それとも動物とかをさしたときのその血なのか。
 - ・発掘したときに土器が割れていることが多いと知ったときは、びっくりした。なんで割れているのだろうと思った。
 - ・木の道具をむしめがねで見たら、あながあいていた。
 - ・遺跡はどうやって見つけたのか。
 - ・昔の道具は何種類あるのか。
 - ・土器はいままで全国では何個ほどみつっているか。
-

表3. 中学校で授業を実施した生徒（第1・2学年）による主な感想.

A) 遺跡の位置に関すること

- ・石狩の花川にも縄文時代のいろいろな道具があることを初めて知った。
- ・近くに遺跡があったことに驚いた。
- ・身近なところでいろいろな物が発見されていてもっと知りたくなった。
- ・自分の身近なところに、このような遺跡があったことを聞き、もっと石狩の歴史などについて知りたいと思った。

B) 縄文時代の遺物に関すること

- ・土器や石器があったのは知っていたけれど、木製品があるのは知らなかった。
- ・木製品が残っているのがすごいというのは初めて知った。
- ・あまり見つかっていない木製品がたくさんみつかっていて貴重なものなのだなと思った。
- ・現在ある木製品にも少し興味がわいてきた。
- ・数少ない材料でたくさんの道具を作っていてすごいなと思った。
- ・4000年前のものが形もそのまま残っているなんてすごい。
- ・時代を感じられてよかった。
- ・本物の土器を見て縄文時代に興味がもてた。
- ・実際に見て、触って、縄文時代についてもっと興味がわいた。
- ・土器、石器、木製品にはそれぞれいろいろな用途があることがわかった。
- ・今回の授業では、縄文時代に生きていた人の知恵や工夫を知ることができてよかった。特に、縄文土器の細かな工夫に興味があった。
- ・今まで知らなかった縄文土器の作り方や材料などが知れてよかった。
- ・石器にはいろいろな種類があることを初めて知った。

C) 授業をととして・展望

- ・縄文時代の勉強になった。
- ・今日のこの一時間のおかげでとても興味をもち、いろいろなことを知ることができた。
- ・またこういう機会があればもっと詳しく知りたい。
- ・まだ分からないことや知りたいことがたくさんあるので、積極的に調べてみたいと思う。
- ・砂丘の風資料館にいつか行きたい。
- ・石狩にも遺跡があったことも初めて知ったから、機会があれば調べてみようと思った。
- ・他の班の発表を聞いて興味をもった。皆の発表がおもしろかった。授業がおもしろかった。
- ・今日の授業を受けて、もっと歴史について知りたいなと思った。
- ・縄文時代以外の時代もどんな道具を使っていたのか知りたいと思う。
- ・もっと違う道具を見てみたい。
- ・この授業で他の時代の遺跡を知りたくなった。

D) 質問・不思議に思ったこと

- ・縄文土器がなぜ作られるようになったのか不思議に思った。
 - ・黒曜石はどうやってとっていたのか。
 - ・黒曜石をどうやって加工したのか。
 - ・石斧は打製石器と違ってすごくなめらかとかツヤツヤしていた。どのようなものでけずっていたのかを知りたいと思った。
 - ・石をこすって石器を作るのにどれくらい時間がかかったのか。
 - ・アイヌ民族とは違うのか。
-

表4. 感想シート回答の集計.

設問 「授業を受ける前、石狩紅葉山49号遺跡について知っていましたか。」

	知っていた	知らなかった	記入なし	提出枚数
中学校 第1学年	5 (4.1%)	107 (88.4%)	9 (7.4%)	121
中学校 第2学年	17 (12.4%)	118 (86.1%)	2 (1.5%)	137
合 計	22 (8.5%)	225 (87.2%)	11 (4.3%)	258

「知りたい」「資料館に行ってみたい」という感想の声についてである。今後の展望として、博物館の教育普及と学校教育との連携が必要とされる中で²、児童・生徒が興味・関心をもったことをさらに育むことのできる場として資料館がさらに活用されるよう、持続的な取組と充実したプログラムの開発に努めていきたい。

謝辞：平成27年度の出張授業・出張展示の実施にあたり、石狩市立緑苑台小学校、石狩市立花川中学校の皆様には大変お世話になりました。緑苑台小学校の和田洋人教頭先生、戸田範子先生、小野誠先生、西岡健太先生、花川中学校の小川満教頭先生、吉田仁先生、新保雄三先生には、事前打合せや当日の授業進行等、多くのご協力を賜りました。石狩市教育委員会参事の濱本賢一氏からは実施に関するご助言をいただきました。出張授業の際には、石狩市学芸協力員の石橋孝夫氏、いしかり砂丘の風の会（ボランティア）の上田芳子氏、加藤和子氏、嘉山千寿子氏、小池久恵氏にもご参加いただき、ご協力いただきました。末筆ではございますが心より御礼申し上げます。

注1 石狩紅葉山49号遺跡の詳細は、石狩市教育委員会（2005）を参照した。

注2 日本の博物館教育の一つとして学校教育との連携の充実が必要とされている（守井，1997；若宮，1998；大國，2008；竹内，2008；2012；寺島，2013など）。

引用文献

- 荒山千恵，2015. 石狩紅葉山49号遺跡を活用した小・中学校における出張授業・出張展示の実施について. いしかり砂丘の風資料館紀要，5：67-75.
- 石狩市教育委員会，2005. 石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書.
- 守井典子，1997. 博物館教育論. （大堀哲編）博物館学協定，東京堂出版，129-153.
- 大國義一，2008. 学校教育と博物館. （全国大学博物館学講座協議会西日本部会編）新しい博物館学，芙蓉書房出版，49-51.
- 竹内有理，2008. 博物館教育の実践② 地域連携とボランティア. （佐々木亨・亀井修・竹内有理）新訂 博物館経営・情報論，財団法人放送大学教育振興会，165-177.
- 竹内有理，2012. 博物館教育の内容と方法. （大堀哲・水嶋英治編）博物館学Ⅱ—博物館展示論*博物館教育論，学文社，210-223.
- 寺島洋子，2013. 学校と博物館. （寺島洋子・大高幸編）博物館教育論，財団法人放送大学教育振興会，130-145.
- 若宮広和，1998. 博物館教育と社会参加. （加藤有次・椎名仙卓編）博物館ハンドブック，雄山閣，157-158.